

2005年12月26日

四日市事業所ソフトアルキルベンゼン（SAB）プラント停止の件

三菱化学株式会社

三菱化学株式会社（本社：東京都港区、社長：富澤 龍一）は、2006年3月末を目途に四日市事業所（三重県四日市市）で稼働中のソフトアルキルベンゼン（以下「SAB」という。）製造設備（生産能力45千トン/年）を停止し、同事業から撤退することを決定いたしました。

SABは、洗剤の原料である界面活性剤として使用されるのがその主な用途ですが、界面活性剤を取り巻く事業環境につきましては、東欧やアジアの一部地域において需要の堅調な伸びがあるものの、世界的には供給過剰の状態にあります。特に欧米においてはSABなど陰イオン系の洗剤原料から、非イオン系の洗剤原料への転換が進展しており、SAB需要が減少傾向にあります。日本においても同様の傾向が見られることから、今後の国内需要の回復は期待できない状況にあります。

こうした環境下、昨今の原油高騰に伴う原料コスト上昇分の価格修正も、国内の供給過剰感から進捗せず、収益的に厳しい状況が続いています。これまでもコスト削減、合理化努力等に取り組んで参りましたが、石化事業の選択と集中を進めるなか、これ以上の事業継続は困難であると判断し、今般、SAB製造設備を停止し、同事業から撤退することを決定いたしました。

「本件お問合せ先」
三菱化学株式会社
広報・IR室
Tel 03-6414-3730